

学習評価 FIRST STEP ―小学校算数科―

1 学習評価は何のため？



学習評価の目的は、児童の資質・能力を育成することです。児童の学習状況を適切に見取り、児童の学習改善や教師の指導改善に生かすことが大切です。

2 学習評価の考え方

(1) 評価の観点

育成を目指す資質・能力の三つの柱を踏まえ、以下の3観点で評価を行います。

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

(2) 学習評価の機能

【指導に生かす評価】

児童一人一人の学習状況を把握し、児童の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

※指導に生かす評価の場面は、随時存在します。児童の学習状況を把握し、「おおむね満足できる」状況(B)以上になることを目指して、必要な指導を適宜行います。

【記録に残す評価】

観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう、学習状況を記録する評価のこと

※記録に残す評価の場面は、毎時間設定する必要はありません。児童全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で、評価規準に照らして、児童の観点別学習状況を把握し、記録します。

(3) 学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価の進め方は、基本的に次のような流れになります。

【例】 第6学年「角柱及び円柱の体積」

① 「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 算数編」(以下、学習指導要領解説)に示された算数科の目標、各学年の目標及び内容等を踏まえて単元の目標を作成します。

単元の目標

(1) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解している。

【知識及び技能】

(2) 図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 柱や円柱の体積の求め方を簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導いた過程を振り返り、底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるというよさに気付く、生活や学習に活用しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】



単元の目標は、当該学年の「学年目標」と「内容のまとまり」で示された内容を基に、必要な記述を踏まえて作成します。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料[小学校算数](以下、「参考資料」)

② 単元の評価規準を作成します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①角柱や円柱の体積について、立方体や直方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。 ②角柱や円柱の体積は、(底面積)×(高さ)で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。	①角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基にしたり、図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。 ②体積の求め方を振り返り、式から、どんな角柱も円柱も、(底面積)×(高さ)で求めることができることに気付き、公式として捉え直している。	①角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ②底面積と高さが分かれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるというよさに気付いている。 ③角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。

「参考資料」p.148

③ 単元の指導と評価の計画を作成します。

②で作成した単元の評価規準を基に、単元のどの時間において、**【指導に生かす評価(・)】**と**【記録に残す評価(○)】**を行うのかを考え、評価場面を精選しながら設定します。

時間	ねらい(目標) ●学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	
1	四角柱の体積の求め方を理解する。 ●四角柱の体積の求め方を、直方体の体積の求め方を基に類推し図や式を用いて考える。		・ ①		行動観察
2	角柱の体積の求め方を理解する。 ●三角柱の体積の求め方を考え、これまでの体積の求め方を振り返り、角柱の体積を求める公式を導き出す。	・ ①	・ ②		行動観察 ノート分析
3	円柱の体積の求め方を理解し、角柱、円柱の体積を求める公式を統合する。 ●円柱の体積の求め方を考え、角柱、円柱の体積を求める公式をまとめる。	・ ②		○ ①	行動観察
4	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明することができる。 ●直方体を組み合わせた複合図形の体積の求め方を、底面に着目して考える。		○ ②	○ ②	ノート分析 行動観察
5	単元の学習内容についての定着を確認し、理解を確実にする。 ●様々な問題に取り組み学習内容を振り返る。		○ ①	○ ③	ノート分析
6	単元の学習内容についての定着を確認する。 ●テストを通して学習内容を振り返る。	○ ① ②			ペーパー テスト

単元の前半では、**【記録に残す評価(○)】**は行いませんが、毎時間のねらい(目標)に即して学習活動の状況を把握し、**【指導に生かす評価(・)】**を適宜行います。授業中に児童の活動の様子や学習状況を把握して、児童の学びを促進させたり、改善させたりするなどの指導や支援を行います。また、自力解決の場面だけでなく、考えを共有し、検討する場面でも行います。

【記録に残す評価(○)】は、「知識・技能」については主に単元末に、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」については主に単元の後半に行います。



算数科の各観点における評価方法は次のとおりです。
「知識・技能」・・・ノート分析、行動観察、ペーパーテスト など
「思考・判断・表現」・・・ノート分析、行動観察、ペーパーテスト など
「主体的に学習に取り組む態度」・・・ノート分析、行動観察 など

学習評価の詳細については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 [小学校算数]」佐賀県教育センターHP「[学習評価の進め方](#)」を御参照ください。